

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①1年生は英語、2年生は数学の少人数指導を取り入れ、より細やかな指導をとおして躓きをなくす授業を展開していく。②学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、個に応じた生徒主体の学習となるような指導を工夫していく。③生徒による授業評価の内容を見直し、より授業改善に結びつものにしていく。	①少人数指導を行うことで、より細やかな指導を通して躓きをなくす授業の展開ができた。②4月に学習状況調査の結果の分析の仕方を研修して授業改善の手立てとすることができた。③2回の授業評価を各教科会で分析して、より授業改善に結びつきよく授業改善の参考にできるようにした。	A
豊かな心	①道徳の授業、国際平和スピーチ、人権作文、募金活動などを通して、人権について理解を深め、自分で考えて実践することで意識を高める。②ボランティア活動への参加率をあげ、保護者・地域の方々との積極的に触れ合う。③生徒会を中心として全校で取り組んでいるあいさつ運動を継続し、校内外で気持ちの良い挨拶ができるようにする。	①体験的な学習、グループ学習を取り入れた道徳授業や公開授業、朝会での生徒作文紹介等から、生徒の実践的な人権意識が向上した。②地域の防災訓練や、夏祭りへのボランティア活動の呼びかけに積極的な参加が増加した。③全校で取り組んでいるあいさつ運動が定着し、生徒が校内外で、気持ちのよい挨拶ができた。	A
健やかな体	①準備運動の一環としてランニング、筋力トレーニングを実施し継続的なトレーニングの大切さを感じさせる。②新体力テストの結果を分析し、不足している能力を補えるよう、授業の中で克服に努め、体力の向上を目指す。	①毎時間の導入として行ってきたが、運動がマンネリ化し、十分な効果を得られぬような運動となって居る場合がしばしば見られた。正しいフォームと運動効果に基づいて丁寧に指導していきたい。②全体的に県・全国平均に比べ劣っている。授業だけでなく、全校的に体力向上を目指し、取り組んで行く必要があると思われ。	B
児童生徒指導	①日ごろから生徒への声掛けを積極的に行い、全生徒への相談活動を充実させる。②予防的な生徒指導を目標に、子どもの変化に気を配り、教師間の情報交換を密にすることで、組織的に対応できるようにする。	基本的な生活習慣が身に付き、生徒自身が主体的に活動できるように、積極的な支援行動ができた。年間2回の定期教育相談で、ひとり一人とじっくりと話ができる場面があり、効果的だった。生活指導部を中心として、情報を共有できるように努め、横軸の連携が構築できた。	A
特別支援教育	①職員研修の機会を設け、障害特性や具体的な支援方法についての理解を深める。②個別の教育支援計画、個別の指導計画に基づき、全教職員が関わりながら、それぞれの生徒に適した指導をおこなう。	・職員研修を2回行い、障害特性や具体的な支援方法についての理解を深められた。②個別の指導計画の作成の仕方についての研修を行うことができた。個に応じた対応は十分に行うことができたが、個別の指導計画の活用課題があると思われる。	B
地域連携	①学校便りや学校ホームページなどで学校の様子や教育活動を地域に対し広く知らせる。②ボランティア活動の情報をまとめ、子どもたちに知らせることで、地域とつながる機会を増やす。	・学校・家庭・地域連携事業を通し、地域との交流を深められた。・学校便りを地域の関係機関に届け、学校の様子や教育活動を知らせることができた。・地域行事や区の夏ポラなどボランティアの募集を生徒に伝えることで、地域の活動に積極的に参加する生徒が増えた。	B
キャリア学習	①1年生では職業講話を、2年生では職場体験を実施する。3年生では進路講話を実施する。②定期的「進路相談」を行い、進路情報の発信、生徒の意識向上、不安解消に努める。	・職場体験学習ではそれぞれの体験先で充実した活動を行うことができた。・3年次の進路相談は時期・回数ともに充実していた。ただ、1・2年の進路学習が少なかりがちなので、「3年間を見通した進路指導」を計画的に進めていきたい。	A
人材育成・組織運営	①校内研修を計画的に実施することにより教師力の向上を図る。そのために外部指導者を積極的に活用する。②メンターチームを組織し、中堅職員をリーダーとしながら研究授業を行うことにより経験の浅い教員の授業力を向上させる。③アンケートをとりながら職員組織の見直しに取り組む。	①研修回数をややして、教師力の向上を図った。②メンターチームの企画で、経験の浅い教員の授業を全職員で見学し、研究討議で経験年数に関係なく、全職員の授業力を向上させるのに役立った。今後は研究授業のみならず、他のことも計画的に取り組んでいくことが課題である。	B
ブロック内相互評価後の気付き	落ち着いた生活をして、きちんとした生活をするのが定着している生徒が多い。小学校の保護者も中学校が安定しているので安心している。合唱コンクールでは、歌っている子どもたちの表情もよく、全クラスとも素晴らしい。とくに3年生は難しい曲に取り組み、感情をこめて歌うことで豊かな心を育てていくのに役立っていると感じた。相互評価で、学区内の3小学校の工夫した取組やさまざまな指導法を聞くことにより、多くのことが引き継がれていることで現在の落ち着いた生活がとれていると理解した。小学校での児童指導や特別活動の取組の情報を共有して、中学校で途絶えさせることなく発達段階に応じてアレンジしながら力を伸ばしていく姿勢が必要である。		
学校関係者評価	落ち着いた雰囲気の中で授業が行われており、授業評価の結果からも多くの生徒が授業を理解しているようである。その結果学力が高いことも横浜市学力学習状況調査の結果からもうかがうことができる。その反面、教科に対する学習意識が若干低いことが、気になることである。学習することの意味や目的をしっかりと持ち、学習することの楽しさが得られるような授業展開を心掛けてほしい。地域の行事に関しては、地域清掃やお祭りや一生懸命に取り組む姿を目にすることができるが、防災訓練や地域の運動会などにもより多くの中学生が参加して、中学校で途絶えさせることなく発達段階に応じてアレンジしながら力を伸ばしていく姿勢が必要である。		
学校経営中期取組目標振り返り	落ち着いた雰囲気の中で、授業や行事、部活動に取り組んでいる生徒が多い。「確かな学力」については学力学習状況調査を分析して授業改善を図ってきており一定の成果があった。今後は、学習意識が高まるような授業展開の研究がお互いに行えるようにしていきたい。生徒指導においては職員間の情報の共有を心掛けること、生徒とのコミュニケーションを密にとること、生徒たちが安心して学校生活を送れている。豊かな心を育てるために教科化される道徳の授業をより計画的に行うことや特別に支援が必要な子どもに対する全職員の共通理解と研修を通して目標を達成していきたい。		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①言語活動の充実を図ることを意識した授業展開の工夫を行っていく。②授業のねらいとふり返りを明確に行い、個々の課題に気づかせるようにする。③学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、個に応じた生徒主体の学習となるような指導を工夫していく。④生徒による授業評価の内容を見直し、より授業改善の参考にできるようにする。	①職員アンケートの結果から言語活動を意識しながら取り組んでいる。基礎基本をしっかり教え、そのうえで必要に応じた言語活動を充実させていきたい。②授業評価の結果からもねらいとふり返りを明確に行う姿勢があった。③学習状況調査の結果を客観的に見るだけで、各自が分析をして課題をみつけて解決するまでには至っていない。④道徳の授業や国際平和スピーチコンテンツへの参加、募金活動に加え、人権週間に合わせていじめについて考え、理解を深めた。⑤生徒会を中心にあいさつ運動が本校の特色として定着しているため、このまま生徒会を中心に継続し、運動を広げていきたい。	A
豊かな心	①道徳の授業、国際平和スピーチ、人権作文、募金活動などを通して、人権について理解を深め、自分で考えて実践することで意識を高める。②ボランティア活動への参加率をあげ、保護者・地域の方々との積極的に触れ合う。③生徒会を中心として全校で取り組んでいるあいさつ運動を継続し、校内外で気持ちの良い挨拶ができるようにする。	①道徳の授業や国際平和スピーチコンテンツへの参加、募金活動に加え、人権週間に合わせていじめについて考え、理解を深めた。②ボランティア活動への参加率をあげ、保護者・地域の方々との積極的に触れ合う。③生徒会を中心として全校で取り組んでいるあいさつ運動を継続し、校内外で気持ちの良い挨拶ができるようにする。	A
健やかな体	①準備運動の一環としてランニング、筋力トレーニングを実施し継続的なトレーニングの大切さを感じさせる。②新体力テストの結果を分析し、不足している能力を補えるよう、授業の中で克服に努め、体力の向上を目指す。③心と体の健康について関心を持ち、ストレスに対応できる柔軟な心と体を養うよう声掛けをする。	①決められた筋力トレーニングをどの単元でも始めに行うようにすると自主的に始める生徒が増えた。②授業の中で敏捷性や体幹力の向上を目指した。③ストレスについて全校で調査し結果をクラスで検討し保健指導をおこなった。その結果を学校保健委員会でも発表した。	A
児童生徒指導	①日ごろから生徒への声掛けを積極的に行い、全生徒への相談活動を充実させる。②予防的な生徒指導を目標に、子どもの変化に気を配り、教師間の情報交換を密にすることで、組織的に対応できるようにする。	①生活アンケートをもとに定期的に教育相談を実施し、効果的に相談活動を行った。②学年内の情報交換にとどまらず、他学年との連絡にも努め、多面的な対応ができた。	A
特別支援教育	①職員研修の機会を設け、障害特性や具体的な支援方法についての理解を深める。②個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用して、全教職員が関わりながら、それぞれの生徒に適した指導をおこなう。	①職員研修を設定し、生徒一人ひとりの特性について考え、情報を共有することで、支援方法への理解を深めた。②個別の指導計画の作成を職員研修で行ったことで、特別支援の必要な生徒への理解が深まり、関わりが増えた。活用については、今後さらに進めていきたい。	A
地域連携	①学校便りや学校ホームページなどで学校の様子や教育活動を地域に対し広く知らせる。②ボランティア活動の情報をまとめ、子どもたちに知らせることで、地域とつながる機会を増やす。	①保護者学校評価アンケートの結果からも学校の様子や教育活動を発信することができた。②について、今年度希望する生徒数が減少している。ボランティアの意義を再啓発し、地域に根差した学校づくりに励んでいきたい。	B
キャリア学習	①1年生では職業講話を、2年生では職場体験を実施する。3年生では進路講話を実施する。②定期的「進路相談」を行い、進路情報の発信、生徒の意識向上、不安解消に努める。③1年生から「3年間を見通した進路指導」を計画的に進めていく。	①インフルエンザの関係で1年の講話が実施できなかったが、それぞれの学年でしっかりと準備をし、実施することができた。②3年次の進路相談を計画的に行うことができた。③計画的に進めたが、1・2年生の更なる充実をはかりたい。	A
いじめへの対応	①子どもの社会的スキル横浜プログラムなどを学校行事や授業などで活用する。②生徒一人ひとりの状況を把握できるように、教育相談活動や日々の行動記録をもとに、校長をリーダーとした担任や学年教師、生徒指導専任教諭からなる組織的なチームで支援を進める。	①について、有効的な活用とまでは至らなかった。②いじめ防止対策委員会で、情報を共有し、学年を超えて、組織的にいじめ防止対策に取り組んだ。今後も引き続き、個々のアンテナを高くし、情報の共有化に努めていきたい。	B
人材育成・組織運営	①校内研修を計画的に実施することにより教師力の向上を図る。必要に応じて講師を招聘する等の工夫をしていく。②メンターチームを組織し、中堅職員をリーダーとして研究授業をとおして授業力の向上を図る。③アンケートなどを通して職員組織の改善を検討する。	①特別支援、合唱指導、生徒指導など夏休み等を使って有意義な研修を行うことが出来た。②メンターチームは研究授業をとおして授業力の向上を図るのに役立った。ただ時間の確保が難しく、定期的に行うことが出来なかった。メンターチームの位置づけを明確化して、定期的に行い研究授業以外の研修も深めていきたい。③来年度に向け小規模な変更を行った。来年度は組織的に見直しを行っていく。	B
ブロック内相互評価後の気付き	授業をはじめとして落ち着いた雰囲気の中で取り組みが行われており、規則をきちんとまもって生活をしている生徒が多い。小学校の保護者も中学校が落ち着いた生活をしているので安心している。中学校に入学してから陸上や合唱を教えるために、小学校に来校する中学生が何人もいる。小学生に丁寧に教えたり、励ましたりしている姿をみていて頼もしく感じ、つながりの深さを感じている。		
学校関係者評価	落ち着いた雰囲気の中で授業や学校行事が行われているようすがうかがえる。授業評価の結果からも多くの生徒が授業を理解しているようである。地域の行事に関しては、もう少し積極的に中学生に参加してほしい。そのためには地域も中学生にとって魅力のある活動を考えていかなければならないと感じている。そのすべは防災訓練や運動会などにもより多くの中学生が参加して、中学校で途絶えさせることなく発達段階に応じてアレンジしながら力を伸ばしていく姿勢が必要である。		
学校経営中期取組目標振り返り	落ち着いた雰囲気の中で、授業や行事、部活動に取り組んでいる生徒が多い。「確かな学力」については、今年度は指導と評価の一体化を意識して、授業のはじめにねらいを明確にすること、ふり返りを意識して行うことを共通して行った。生徒の授業評価からもその成果がうかがえるが、より一層取組を重視していきたい。来年度に向けて、地域行事の予定を早めに伝えて、より多くの生徒が参加できるような体制をつくるよう努力していきたい。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①言語活動の充実を図ることを意識した授業展開の工夫を行う。②授業のねらいとふり返りを明確に行い、個々の課題に気づかせる。③学習状況調査の結果を分析し、課題の解決に向けた授業改善を進め、個に応じた生徒主体の学習となるような指導を工夫していく。④生徒による授業評価の内容を見直し、より授業改善に結びつものにしていく。	①基礎基本をしっかり教えながらも言語活動を充実させる手立てをこれからも模索していきたい。②授業始めにねらいを明確にしていきたい。③授業終わりのふり返りを行うようになってきた。④学習状況調査の結果の見方の研修を行い、分析する時間を教科会で設けた④重点目標に合わせて、ねらいとふり返りが行われていくようにしていきたい。	A
豊かな心	①道徳の授業、国際平和スピーチ、人権作文、募金活動などを通して、人権について理解を深め、自分で考えて実践することで意識を高める。②ボランティア活動への参加率をあげ、保護者・地域の方々との積極的に触れ合う。③生徒会を中心として全校で取り組んでいるあいさつ運動を継続し、校内外で気持ちの良い挨拶ができるようにする。	①異文化理解として「国際平和スピーチコンテンツ」に3年生は全員で参加するなど、広い視野で多様な社会に目を向ける視線を育てた。②地域の防災訓練や、夏祭りへのボランティア活動の呼びかけに積極的に参加する生徒が増加した。③全校で取り組んでいるあいさつ運動をさらに具体的な活動となるように、生徒会と連携した。	A
健やかな体	①準備運動の一環としてランニング、筋力トレーニングを実施し継続的なトレーニングの大切さを感じさせる。②新体力テストの結果を分析し、不足している能力を補えるよう、授業の中で克服に努め、体力の向上を目指す。③心と体の健康の健康課題について学校保健委員会で取り組み、保健指導をおこなう予定	①ランニングと筋力トレーニングを継続して行い、全体に継続的なトレーニングの大切さを感じさせることができた。②新体力テストでは握力と立ち幅跳びが平均を下回ったが、具体的に改善に向けた取組が行えなかったため、今後取り入れていきたい。③学校保健委員会で食育に取り組み中学生に必要な学習について保健指導を行った。	A
児童生徒指導	①日ごろから生徒への声掛けを積極的に行い、全生徒への相談活動を充実させる。②予防的な生徒指導を目標に、子どもの変化に気を配り、教師間の情報交換を密にすることで、組織的に対応できるようにする。	①定期的に相談アンケートを用いた教育相談を実施した。②より予防的指導を行うために、職員間で指導の方向性、事前事後の情報共有をさらに密にする必要がある。	A
特別支援教育	①職員研修の機会を設け、障害特性や具体的な支援方法についての理解を深める。②個別の教育支援計画、個別の指導計画を活用して、全教職員が関わりながら、それぞれの生徒に適した指導をおこなう。	①職員研修や職員会議を通して、個々の事例をもとに障害特性や具体的な支援方法についての理解を深めた。②個別の指導計画を複数の職員で協議し作成した。今後は、個別の教育支援計画を充実させ、それらを積極的に活用し、指導に役立てていきたい。	B
地域連携	①学校便りや学校ホームページなどで学校の様子や教育活動を地域に対し広く知らせる。②ボランティア活動の情報をまとめ、子どもたちに知らせることで、地域とつながる機会を増やす。③地域のニーズと生徒が率先して取り組める活動の内容を精査し、活発にボランティア活動に参加していく雰囲気を作りたい。	①学校HPIについては、更新の頻度があった。今後さらに充実させていきたい。②今年度は生活部が取りまとめて、福祉厚生委員会が協力した。ボランティア活動の情報提供、とりまとめは福祉厚生委員会が主になって行っていき方によりスムーズだと感じた。また生徒会活動とも連携していきのぞきたい。	A
キャリア学習	①1年生では職業講話を、2年生では職場体験を実施する。3年生では進路講話を実施する。②定期的「進路相談」を行い、進路情報の発信、生徒の意識向上、不安解消に努める。③1年生から「3年間を見通した進路指導」を計画的に進めていく。	①講話・体験活動が充実した活動を行うことができた。②進路相談は3年生中心ではあったが、生徒たちと向き合うことができた。③進路総合部として内容を考え進めることができた。	A
いじめへの対応	①子どもの社会的スキル横浜プログラムなどを学校行事や授業などで活用する。②生徒一人ひとりの状況を把握できるように、教育相談活動や日々の行動記録をもとに、校長をリーダーとした担任や学年教師、生徒指導専任教諭からなる組織的なチームで支援を進める。	①今年度は夏休み前に横浜プログラムを実施し、夏休みの職員研修で各クラスの結果を共有し学級指導に活かす資料とした。来年度は年間2回の実施を目指していく。②組織的に取り組むことはできた。今後は、より職員間で情報共有を密にし、予防的かつ組織的な指導を行っていきたい。	A
人材育成・組織運営	①校内研修を計画的に実施することにより教師力の向上を図る。②メンターチームを組織し、中堅職員をリーダーとして研究授業をとおして授業力の向上を図る。③アンケートなどを通して職員組織の改善を検討する。④職員室業務アシスタントの配置により、副校長及び教員の事務作業の軽減をはかる。	①特別支援、合唱指導、生徒指導などを外部講師を呼ばずに、自分たちで研修を実施した。②メンターチームは研究授業に向けて定期的に研修会を設け、授業力の向上を図った。③職員組織の見直しを行った。④業務アシスタントについては、教員の事務作業の軽減をはかることになった。	A
ブロック内相互評価後の気付き	授業をはじめとして落ち着いた雰囲気の中で取り組みが行われており、規則をきちんとまもって生活をしている生徒が多いので、小学校の保護者も安心して生活している。小学校の時にはあいさつができなかった児童が中学校に入学して、元気にあいさつをしている姿が見られる。これは、生徒会を中心としたあいさつ運動や部活動の影響であると思われる。縄跳び大会の朝練習や陸上や合唱を教えるために、小学校に来校する中学生が何人もいる。小学生に丁寧に教えたり、励ましたりしている姿をみていて頼もしく感じ、つながりの深さを感じている。		
学校関係者評価	落ち着いた雰囲気の中で授業や学校行事が行われているようすがうかがえる。生徒の授業評価の結果や各行事、学校評価の保護者アンケートの結果をみても多くの生徒や保護者が学校の教育活動を理解しているようである。地域の行事に関しては、地域清掃や夏祭りに参加する生徒が増えてきている。防災訓練や運動会などにもより多くの中学生が参加して、中学校で途絶えさせることなく発達段階に応じてアレンジしながら力を伸ばしていく姿勢が必要である。		
学校経営中期取組目標振り返り	落ち着いた雰囲気の中で、授業や行事、部活動に取り組んでいる生徒が多い。「確かな学力」については、今年度は指導と評価の一体化を意識して、授業のはじめにねらいを明確にすること、ふり返りを意識して行うことを共通して行った。生徒の授業評価からもその成果がうかがえるが、より一層取組を重視していきたい。来年度に向けて、地域行事の予定を早めに伝えて、より多くの生徒が参加できるような体制をつくるよう努力していきたい。		